

# 十和田市セーフコミュニティ領域別対策部会の活動

十和田市では各種データをもとに、**8分野** にわたり重点的に取り組む課題を決定し、活動を行っています。  
実際に活動している対策部会の内容を紹介します。

部会名・参加団体	課題	取り組み内容
<b>1</b> <b>子どもの安全対策部会</b> 十和田地区保育研究会、とわだセーフコミュニティをみんなですすめ隊など5団体 	乳幼児の転倒、転落などのけがが多い  小学校内でのけがが多い	乳幼児を持つ保護者に対し、家庭などでのけがに対するアンケート調査を実施。その結果を保育園や保健センターに掲示するとともに、危険事例をカード化、ポケットティッシュにして配布し、注意喚起を促しています。  市内各小学校が行っている安全対策を部会員が取材し、「セーフコミュニティだより」を作成。市内全小・中学校に掲示をお願いしています。  セーフコミュニティだより
<b>2</b> <b>高齢者の安全対策部会</b> (特非)スマイルラボ、青森県建築士会十和田支部、老人保健施設とわだなど6団体 	窒息が原因で死亡する高齢者が多い  転倒、転落によるけがが多い  高齢化に伴い、高齢者夫婦世帯、単身世帯が増加している	3つの課題に対応した取り組みを1枚のチラシにまとめ、高齢者が集まるイベントや在宅介護支援センターなどで配布しています。  部会で作成したチラシ ①窒息予防のためのあいうべ体操 ②転倒事故予防のための簡単チェック項目 ③高齢者あんしん見守り協力隊の紹介
<b>3</b> <b>自殺予防対策部会</b> とわだセーフコミュニティをみんなですすめ隊、(特非)スマイルラボなど9団体 	身近な人が自殺する兆候に気付いていない  働き盛りの世代や高齢者の自殺者が多い	ストレスの対処法やうつ病の症状、対応法を知ってもらうため、こころの健康講座やゲートキーパー（自殺の危険を示すサインに、適切な対応を図ることができる人）講座などの普及啓発を行っています。  平成21年に当時の対策部会員などが傾聴サロン「ルピナス」を開設するなど、誰でも気軽に相談できる機会を増やすための活動を行っています。  【高齢者の安全対策・自殺予防対策合同部会】 高齢者の自殺対策について情報を共有し、取り組みを協議
<b>4</b> <b>交通事故予防対策部会</b> 市交通安全協会、市交通安全母の会など8団体 	薄曇り以降の時間帯での歩行中の事故が多い（特に高齢者）  交差点での事故が多い	市交通安全母の会が実施している高齢者世帯訪問事業に部会員も同行し、交通事故への注意喚起や反射材の配布などを行っています。  十和田警察署などが作成した「十和田地区交通事故多発地点」のチラシやポスターの掲示などを行い、特に気を付けて運転してほしい交差点の注意喚起を行っています。

部会名・参加団体	課題	取り組み内容
<b>5</b> <b>防災対策部会</b> (特非)スマイルラボ、とわだセーフコミュニティをみんなですすめ隊など9団体 	毎年、火災による死傷者が発生している  災害が発生した場合の備えに不安がある	住宅用火災警報器の設置や維持管理を行うよう周知活動を行っています。  自主防災組織や町内会に対し、消防本部や民間企業が実施する防災訓練などを開催、参加してもらうための啓発用のチラシを作成しています。
<b>6</b> <b>暴力・虐待予防対策部会</b> (特非)スマイルラボ、十和田地区保育研究会など7団体 	児童や高齢者、女性などに対する暴力・虐待が発生している	部会員自らオレンジリボン・パープルリボンを作成。また、虐待防止などに対するチラシを作成し、各コミュニティまつりなどのイベント来訪者に配布し、暴力・虐待防止の普及啓発を行っています。  オレンジリボン…児童虐待防止のシンボル パープルリボン…女性に対する暴力根絶運動のシンボル
<b>7</b> <b>余暇活動の安全対策部会</b> (一社)十和田奥入瀬観光機構、(一財)十和田湖ふるさと活性化公社など7団体 	余暇活動（スポーツ・レクリエーション）時にけがが発生したときの対応への不安がある  外国人宿泊客の急な病気やけがの対応に不安がある	予期せぬけがが起きやすい余暇活動中でも応急処置ができる体制づくりを目指し、1人でも多くの人に救命講習会を受講していただくよう、普及啓発を行っています。  平成28年に外国人とのコミュニケーションツールとして、英語・韓国語・中国語の救急カードを作成し、市内全宿泊施設に配布、救急時の対応に活用してもらっています。
<b>8</b> <b>労働の安全対策部会</b> とわだセーフコミュニティをみんなですすめ隊、(一社)上北労働基準協会など8団体 	農作業時にけがが発生している  労働災害で転倒、転落が多い	農作業による事故やけがを減らすため、農作業時の服装や機械の安全点検、確認などに気を付けるよう、講習会などを開催し、注意喚起を促しています。  労働安全大会などで労働災害の発生状況に関するチラシを配布し、注意喚起するとともに、アンケート調査を行い労働災害の状況把握を行っています。

今まで単独で開催することが多かった対策部会ですが、他の対策部会と課題や対象者で共通する部分があることから、今年度は新たな試みとして、合同で対策を協議した部会もあります。今後もそれぞれの部会の取り組みを生かしながら、部会員同士の情報共有を図り、取り組みの充実を進めていきます。

